

2019 年度 福祉助成金（活動助成）成果報告書 提出用

公益財団法人 橋本財団  
理事長 橋本 俊明 様

2020 年 5 月 26 日

ふりがな	とくていひえいり かつどうほうじん ぶどうのいえわたぼうし			
団体名	特定非営利活動法人 ぶどうの家わたぼうし			
代表者名	役職名	理事	氏名	武田 直樹
連絡先	住所	岡山県倉敷市船穂町船穂1 7 1 1 - 6		
	TEL	086-552-2171		
	E-mail	info@budounoie.co.jp		
	URL			
設立年（西暦）	2013 年			
主な活動	移送サービス事業 食事をして買い物に行こう事業 食事支援事業			
活動の対象者	真備に在住していた方達			
助成活動名	オレンジボランティアを受け入れ調整していく事務局整備事業			
助成額	600,000 円			
実施内容	目的	2018 年 7 月の倉敷市の災害で地域とのつながりが分断された、真備町の方達が復興し新しく再生していく町づくりの過程で、日常生活の急激なストレスが認知機能を低下させ本人、家族にもさらに影響を及ぼしている状態を、再びここへ戻ってきてもいいんだと思える、居場所づくりや人との交流で安心できる状態へつなげるための、ボランティア活動の拠点である事務局体制の立ち上げが必要である。		
	内容	居場所づくり：「味噌汁ご飯を食べる会」毎週 1 回 毎回 15 名～20 名 季節のイベント：「秋まつり」参加者 480 名、「オレンジの集い」当時の水害を大学生が語る（参加者 40 名） 認知症サポーター養成講座・高齢者、認知症講座：箭田小学校 50 名、辻田地区 10 名、就労支援いちごの家 6 名、真備高齢者支援センターと合同にて箭田地区 12 名、岡田地区 15 名、二万サロン「認知症講座」8 名 船穂中学校では認知症ご本人と一緒に講演会（中学生・先生・保護者 210 名）		
	成果	当初、住民の方達は自宅へ帰ることや、この先の復興状況への不安が大きく、いつでも誰でも来れる場所としての居場所づくりとして毎週（木）に参加費 200 円と一緒にご飯を食べる「味噌汁ご飯を食べよう」という会を開催。その他にも、気軽に集まりやすい「お餅つき」「巻きずしを作る」「玉ねぎドレッシングづくり」など、住民の声をもとにしたイベントを中心に顔なじみの関係作りから初めた。また「秋まつり」に関しては 480 名の参加者があり、多世代交流の場としての「オレンジの集い」の開催は住民同士の声をつなげる役割としてオレンジボランティアが周知されることにもなったのである。 そのことから「認知症サポーター養成講座」の開催へつながり、認知症への関心の高まりから、真備高齢者支援センターと合同で「認知症サポーター養成講座」や「認知症講座」の開催や、真備支え合いセンターや他団体と一緒に仮設住宅やみなし住宅への支援につながるオレンジボランティアの活用を検討気運につながったのである。		
今後の課題と対応策	今年度の活動実績から、住民の中で「自分達も役割を持ったボランティア活動をしたい」という声を受け「認知症サポーター養成講座」を受講した方を中心に、オレンジボランティアの登録準備と、月 2 回の認知症カフェの開催、毎月の月間スケジュールの配布を準備していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大から、人が集まるイベント・講座への開催への			

見通しが立たなくなっている。つながりのある地域の方達と認知症高齢者の橋渡し役になることを目指したい。認知症の問題は高齢者だけの問題ではなく、子どもやその親たちの世代にも関係していて、まちづくりにつながっている。早くこのコロナ禍が収束することを願い、SNS を通じたボランティア講座の開催の準備が必要である。

参加者・利用者の感想など

1. 災害後は町内を超え多方面からの参加ができ地域交流が広くなり知り合いが増えた。
2. 世代の違う人との交流で知識が増えた。
3. ボランティアとして来てくださる方が多種多様なので広く情報がもらえた。
4. 居場所での交流で顔見知りになると他へのイベントへも参加しやすくなった。
5. ぶどうの家 Branchに通うことで自分の能力の発見になった。
6. ボランティアをすることで生きがいを持てた。



味噌汁ご飯を食べよう

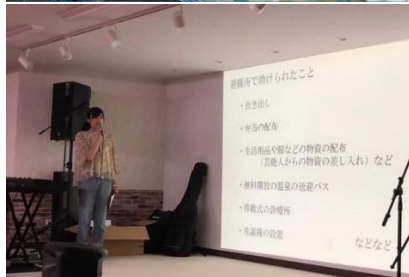


認知症サポーター養成講座（キッズ）

写真の提出



秋まつり



オレンジの集い